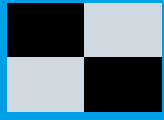


Welcome to...



首都大学東京大学院人間健康科学研究科
作業療法科学域（博士前期・後期課程）

2013



*Department of Occupational Therapy
Graduate School of Human Health Sciences
Tokyo Metropolitan University*

一人でおこなう学問への挑戦，それは必ずしも作業療法士としてのあなたのすばらしい未来を約束するものではありません。なぜなら，挑戦するにはそれなりの作法があるからです…。

多くの情報に接することは成功への必要条件ですが，十分条件ではありません。なぜなら，情報は知識として活用されてはじめて役立つものだからです…。

作業療法の世界はあなたに無限の可能性とひらめきを与えます。でも，それには様々な相互作用とひらめきを与えてくれる知的な研究環境が必要となります。

あなたに必要なもの…とは，あなたがもつ潜在能力を十二分に促進してくれる環境と知的な興味を共有できる仲間たちです。新しい出会いが，あなたの知的好奇心を十分に駆りたててくれます。新しい環境，出会いの場を選ぶことからあなたの挑戦が始まります…。



作業療法科学域アドミッションポリシー

作業療法科学域では，科学的，社会的，文化・創造的幅広い視点から自分自身の作業療法体験を振り返り，知識の再構築を図ることによって視野を広げ，他専門領域との横断的研究や国際的学术交流などを経験する意欲をもち，作業療法全般，あるいは一般臨床から地域・生活におけるヘルスプロモーション全体に貢献する人に学ぶ機会と研究のための環境を提供する。そのため，幅広い教育力，マネジメント力，そして研究力を身につけ，作業療法の創造的発展に貢献しながら，国際的にも活躍できる可能性を持つ人，あるいはそうした努力を惜しみなく実行できる人を求めている。

【博士前期課程・全領域共通】

専門性の深化を図る様々な基礎研究は根拠のある作業療法としての信頼性をもたらす。そうした理論，実験などの基礎的研究から，臨床における問題解決のための実践研究まで，幅広い研究に興味と関心を示し，ある程度の研究経験を有する人。

【博士後期課程・全領域共通】

根拠に基づく作業療法学研究において，先駆的な役割を担う事，または新しい知見が予想される研究を実施し，対象者の臨床から社会生活全般にわたる作業療法の実践的有効性と社会的役割を前進させるための意欲と能力を持つ人を求める。

作業療法科学域からの提案

1 人間健康科学研究科の理念

『大都市で生活する人々の「健康」と「活力ある長寿社会」の実現を目指す』

作業療法科学域では研究科の理念を踏まえて、研究と教育を強力に推進し、常に「作業療法科学」を探究し続けます。

2 作業療法科学域のコンセプト

作業療法科学域の各分野においては、作業療法理論と実践の根拠に基づいて確立される、作業療法学の発展と深化を図りながら、新たな知見を得て社会に還元できる能力をもつ人材の発掘と育成に努めます。

3 作業療法科学域における研究

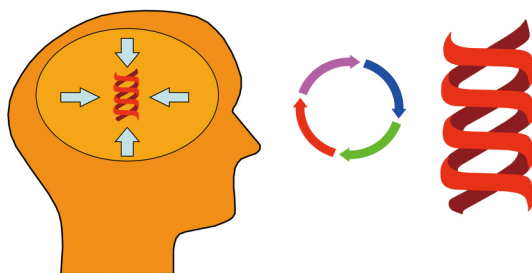
生活環境や生活習慣の変化に伴う慢性疾患や生活習慣病の増加、学校や職場におけるストレスの増大による精神障害や不適応の増加、家族構成の変化とも関連する小児や高齢者への虐待、思春期の拒食症や過食症、トラウマなど、現代社会における疾病構造の変化への対応、従来の作業療法理論と技術をより発展させるため、身体障害、精神障害、および、地域生活の観点から幅広い研究を行います。

4 もう一步先！

- 人間作業モデル（MOHO）研究
- 障害者の社会参加の促進～心身障害分析学と就労支援に関する研究
- その他、高次脳機能障害、リハビリテーション工学、生活環境・住宅～福祉機器、専門職連携協働理論と実践、リハビリテーション情報学など…

5 作業療法科学域の人材育成

人の心身諸機能と生活環境の両側面から最新知見を教授し、自ら問題を発見し新たな治療や援助方法を研究開発できる能力をはじめ、専門職としての発展に向けた科学的な思考と探求力に基づき、保健医療福祉サービスの充実のために貢献する行動力を備えた高度な実践的専門家、教育者、研究者を育成します。



Constructivism: a model for learning

身体障害作業療法学分野

肢体不自由や内部障害を対象に、作業療法学、脳神経学、生活環境学、リハビリテーション学などに基づいて、人と作業と環境の関係、および、生活諸活動と社会参加のための総合的な評価や治療、支援のあり方を深めます。

学生は、対象者を生活障害の視点で捉え、有効な作業療法支援を自ら実践し、研究する力をつけると共に、自立生活に必要な生活福祉機器の開発や環境整備に必要な力をつけることが期待されています。

精神障害作業療法学分野

精神障害者の示す症状や活動低下を分析し、リハビリテーションにより機能を回復し、障害を予防するための理論と技術について研究し理解を深めます。とくに精神障害者のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）実現支援のための精神医学、作業療法、心理的な側面からの分析を通し、研究に必要な知識と技法を探究します。

児童期から老年期までのすべての年齢層を対象に、治療仮説に基づく評価法や治療方法、さらには社会参加に至るプロセスを設定し、研究します。

地域作業療法学分野

地域作業療法学分野は、身体障害や精神障害を含めて、地域に生活する人々の作業療法を実施するための研究が主体となります。

地域に生活する人々の作業療法理論といえば、本研究科作業療法科学系が中心となって研究を推進している作業行動という考え方とその概念的実践モデルである人間作業モデル（MOHO）が中心となります。

MOHOをさらに研究したいという方、MOHOをもっと良く知りたいという方の挑戦をお待ちしています。地域作業療法に関連する研究を希望する方も大いに歓迎いたします。まず一度、作業療法科学域の研究室のドアをノックして下さい。



作業療法の世界をさらに広げる！

作業療法科学、人間作業モデル（MOHO）の理論と応用を学ぶことにより、日々の作業療法を実践するうえで必要な創造性を育みながら、さらに思考力と研究的態度が深化します。また、病院、施設、地域などにおける作業療法の役割と機能を横断的に捉え、視野を拡大することによって、作業療法の新たな可能性を認識できます。作業療法の領域拡大は、単に一つの専門職としての伸張が目的ではなく、時代と社会のニーズがそこにあることから始まります。

大学院に学ぶことは、各人の職場における作業療法をさらに発展させる機会であると同時に、作業療法の新たな職域拡大の機会も提供します。

職業リハビリテーションが今ほど必要とされる時代はこれまでにありませんでした。まだ働き盛りの高次脳機能障害者の就労援助から地域生活の援助、知的障害をもった人たちの就労援助と社会参加でも作業療法による支援が必要です。また、リハビリテーション工学は高齢化社会のニーズに適合し、新たな福祉機器の開発～居住環境など、作業療法ならではの発想と技術による支援が求められています。さらに、高齢化率の上昇は一般社会においても作業療法士の役割を増加させています。一般企業・サービス産業における高齢者への様々なサービスでは、すでに作業療法士の参画が求められています。高齢者の健康増進や介護予防では他の専門職と連携して作業療法独自の援助を行いますが、ここでは MOHO 概念による役割と遂行機能が重要な意味をもちます。これらの新たな職域は現在の病院、施設から地域、社会へと作業療法の世界が拡大しつつあることを意味しております。つまり、作業療法士が大学院で学び研究的態度を養うことの意味と意義とは、やがてそれらが社会に還元されるべき性質をもっているということにほかなりません。

「作業行動」とは何か

アメリカの作業療法士である Mary Reilly 博士（元・南カリフォルニア大学大学院主任教授）は、「地域社会は、日常生活をどのように形成すべきか、というモデルを、われわれに提供してくれる。それは睡眠、個人的身辺処理、家事、仕事、レクリエーション、そしてレジャーのための時間と分類されるものから成る」と述べていますが、これが作業行動の骨格を示していると思います。さらに、作業行動というモデルを説明する中で、「バランスの取れた日常生活のパターンの中での生活技能の練習を強調し、個人の興味と能力を取り入れ、年齢、性、作業的役割に関する日常的出来事を作り上げ、日常生活空間の各側面の適切な目標に関する知識によって導かれる」とも述べています。

ここから、人間の作業とは、家事や仕事の仕事の活動、身辺処理活動、レクリエーションやレジャーなどの遊び的活動から成るものと定義され、作業療法はこうした日常生活のパターンを維持することを目ざすものであるとされました。作業行動は、「この遊びと仕事のまったくの発達の連続性」を示すものとして命名されました。今日、作業療法という作業とは、仕事、遊び、日常生活活動の3種類から成るとされていますが、その原形はこのような Reilly の提案によるものと考えられます。こうした作業的な生活ができない状態を「作業機能障害」と呼び、それが作業療法の取り組むべき問題であるとされたわけです。

作業療法科学域教員・研究室一覧

教員名	職位	研究領域
里村 恵子 (作業療法科学域長)	教授	精神障害者への作業療法, 地域における共同作業所, 司法領域での作業療法
石井 良和 (作業療法科学域長補佐)	教授	人間作業モデルに関連する評価および介入法, 精神障害領域におけるQOLと適応に関する研究
繁田 雅弘	教授	精神医学, アルツハイマー病やその他の認知症の診断・治療・介護
大嶋 伸雄	教授	身体障害の作業療法, 高次脳機能障害, リハビリテーション情報学, 保健医療福祉専門職連携理論 (IPW), 連携教育 (IPE)
小林 法一	教授	高齢者の地域作業療法に関する研究
井上 薫	准教授	高齢者の自動車運転特性・運動学習, 福祉用具・リハビリテーション機器の開発, 作業療法教育に関する研究
蘭牟田 洋美	准教授	老年心理学, 「閉じこもり」高齢者の QOL を向上を目指した心理的介入プログラムの開発, 中高齢期のライフイベント
伊藤 祐子	准教授	発達障害児の作業療法における評価・支援システムの開発に関する研究, 感覚統合, 遊具, 福祉用具に関する研究
ボンジェ ペイター	准教授	身体障害を有する高齢者, 職種間連携協働 (IPW) とその教育 (IPE), 生活を再獲得するプロセス, クライアント中心, 作業科学, 国際的研究
橋本 美芽	准教授	生活環境整備手法, 高齢者の住宅改修, 障害特性と福祉用具・生活環境の適合技術に関する研究
谷村 厚子	助教	精神科領域の作業療法に関する研究, 地域精神保健サービスに関する研究, 作業療法教育に関する研究
宮本 礼子	助教	ヒトの自他認識に関する基礎的研究, 学生の臨地実習に関する自己認識の国際比較研究, 高次脳機能障害教育に関する研究
川又 寛徳	助教	高齢者に対する予防的作業療法に関する研究
石橋 裕	助教	高齢者のライフスタイルに関する研究, AMPS を基盤とした日常生活課題 (特に化粧) 支援技術の開発

(平成 24 年 4 月現在)



学位(修士・博士)論文

平成 二十 二年 度	【学位(修士)論文名】
	● 介護老人福祉施設に勤務する介護職員が考える望ましい介護とは
	● うつ病により休職した男性の仕事への再適応に関する研究
	● 集団場面の観察を通じた保育支援における作業療法士の役割
	● 地域生活する男性脳卒中障害高齢者の作業適応と人間関係の変容プロセス
	● ランダム化比較試験による地域で生活する健康高齢者への予防的健康増進プログラムの効果
	● 脳血管疾患を有する入院患者における調理訓練の意味
	● 訪問リハビリテーションに従事する作業療法士のアプローチに関する研究 ―リフレクションのプロセスを通じた実践内容の振り返り―
	● ランダム化比較試験によるデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者の作業療法効果
	● 肥満症や2型糖尿病を持つ子どもの自己認識と病気に対する認識
● 作業療法臨床実習指導者が学生に求める能力に関する研究	
【学位(博士)論文名】	
● 「高齢者版・手工芸に対する自己効力評価」の作成 ～妥当性と経験値からの検討～	
● 子どもは自分の運動能力をどのくらい正確に把握しているか？	

平成 二十 三年 度	【学位(修士)論文名】
	● 要支援・要介護高齢者における一人暮らしの工夫に関する探索的研究 ―家事に焦点を当てて―
	● 脳卒中回復期の対象者に人間作業モデルを用いた実験群とそれ以外の理論を用いた統制群の作業療法効果のランダム化比較検証
	● 定年制による退職者が作業を再構築していくプロセス
	● 山谷地区ホームレス者の作業に関するニーズと健康関連 QOL の調査
	● 司法精神医療の対象者が生活に見通しを立てていくプロセス ～希望の再構築に焦点を当てて～
	● 回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の職業的アイデンティティに関する調査研究
	● 脳卒中後遺症者の回復期病棟入院中の心理的要因と身体機能・ADL・QOL の関係
	● 回復期リハビリテーション病棟におけるクライアントの健康関連 QOL と生活満足度に影響する作業療法援助のランダム化比較研究
	● 左半側空間無視患者の障害に対する気づきのプロセス
【学位(博士)論文名】	
● 作業療法士養成専門校学生へのアンケート調査による臨床実習満足度尺度作成に関する研究	
● 脳卒中者は病前との連続性を回復する際に作業療法をどのように意味づけているか	



作業療法科学域と英国 Oxford Brookes University 大学院との 国際交流協定が結ばれました！

本学大学院人間健康科学研究科の作業療法科学域の国際化推進のため、2名の教員が2010年3月3日にOxford Brookes Universityの作業療法専攻コースを訪問し、Sally Feaver教授とJenny Butler教授と面談、両大学院における作業療法専攻の国際交流について話しあいました。Oxford Brookes Universityでは以前より日本の大学をアジアにおける重要な戦略パートナーと位置づけており、大学院・作業療法学専攻間での高いレベルにおける教育・研究の国際交流を推進することで基本的な合意を得ることができました。

2010年12月、Oxford Brookes UniversityのAssociate DeanであるRob Wondrak教授と大学院作業療法科学専攻のJenny Butler教授が首都大学を訪問され、原島学長への表敬訪問や作業療法科学域・博士前期課程での特別講義などを行いました。今後、両大学院の大学院生による国際交流や国際共同研究などが活発に推進される予定です。

Oxford Brookes University の概要

1865年、現在の大学の前身となるオックスフォード・スクール・オブ・アートとして設立。英国で初めて単位制を導入した大学でもあり、常に注目の高い専門分野で業界の先端をゆく教育・研究活動を続けている。

1996年以降7年連続でタイムズ紙刊行の『グッド・ユニバーシティ・ガイド』で“ベスト・ニュー・ユニバーシティ”に選ばれた。英国オックスフォード市内にキャンパスのある総合大学として医療、法学、工学、教育など17学部を有し、教員数は約1,200人、学生数は約18,000人であり、そのうち留学生は約10%、大学院生は約3,600人である。

協定を結ぶSchool of Health and Social Careの大学院は、Nursing, Midwifery, Occupational Therapy, Osteopathy, Operating Department Practice, Paramedic Emergency Care, Physiotherapy, Social Workにおける各専攻コースを有し、幅広い研究と教育を行っている。大学間協定では世界各国との実績があり、留学生の受け入れと共同研究に積極的である。

Department of Occupational Therapy
Graduate School of Human Health Sciences

2013 首都大学東京 大学院

人間健康科学研究科 作業療法科学域

〒116-8551

東京都荒川区東尾久7-2-10

電話：03-3819-1211 (代)

URL：<http://www.hs.tmu.ac.jp/>